

よくあるお問い合わせについて、 当館の見解をご説明します。

どんな手口だったのか

贋作者ベルトラッキが古いキャンバスを使うなどしてものまねの絵をつくり、共犯の画商が嘘の来歴情報や偽造ラベルなどを駆使して売り込む手口です。本当の画家の作風を思わせるできればであったことから、鑑定家をはじめ専門家の目を欺くことができました。

他の贋作に、当時には存在しない成分の絵具や接着剤などが含まれていることが科学調査で明らかになり、贋作者と共犯者は罪を自供し、裁判で有罪となりました。

贋作と判断した根拠は

ベルリン州警察の捜査により、有罪判決を受けた他の贋作と本作の来歴情報が共通であることや、本作の鑑定書を書いた専門家ニキエルが、2010年の捜査の段階で、本作を贋作と判断する証言をしたことが明らかになりました。

良い絵だが価値はないのか

メッツァンジェ(1883-1956)の同時代の絵を思わせるものです。ただ、全ては贋作者の空想であり、メッツァンジェ本人や制作年代とは何の関係も意味づけできません。

美術作品は、作家が築き上げた芸術性と歴史に照らして位置づけられ、その価値が後世に共有されていきます。その位置づけのルールを悪用したのが贋作犯罪です。

作品に感動した私たちも、そのルールの中で鑑賞していたのであり、贋作そのものに自律した価値があるわけではなく、人類が後世に残す文化財とはいえません。

絵の価値は作家名で決まるのか

作家名ではなく実績で決まります。作家の制作実績、歴史上の評価に照らして、作品は位置づけられます。

もしこの絵が、別の作家名で発表されたとしたらどうなるでしょうか。「見応えのある絵だがメッツァンジェのものまねだ」という評価しか得ることはできません。「絵そのものに価値があり名前は関係ない」というのは詐欺師の詭弁です。

話題になった贋作を活用してはどうか

贋物を含めた文化の歴史を紹介することはできるかもしれませんが、当館は真作を見ていただく本来の美術館活動に精励し、徳島県の文化振興に資するよう努めたいと思います。